

自分らしく生きられる社会

北杜市立小淵沢中学校三年 小平 佑朔

「男なんだから。」

私はこの言葉に妙に敏感だ。

私は小さい頃から今もよく女の子と話していることや遊んだりすることが多い。ただ、これを見る周囲の目線は痛いものである。なぜなら私の性別が男であるからだ。今ではもう慣れてしょうがないと思う反面、自分の中で少しモヤモヤする気持ちもある。

「ちがうのに。」

と。しかし私はこの気持ちを周囲に話すことができない。なぜなら……

私は中学二年生にあがった頃の社会の授業で、今や世界的に広がる二〇一五年に開かれた国連サミットで採択された一七の国際目標「SDG s」を知った。私はその中でも五つ目の目標「ジェンダー平等を実現しよう」に興味をもった。なぜならすでにその頃から冒頭のような違和感を抱いていたからだ。自分でも気になって、インターネットで調べることにした。

「LGBT」、こんなワードが出てきた。よくニュースで取り上げられていたりしていたので聞いたことはあった。これは、レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダーの四つの同性を異性として愛する者や両性を愛する者、性の不一致を抱えている者などの性的少数者を指す頭文字をとったものである。私はこのような人たちに興味をもった。今の世界、日本ではある程度の人には知られており理解のある人も増えてきているそうだが、一昔前までは、このような性的少数者の人権をないものとしたり、殺傷する事件など差別する者が多くいたそうだ。私はみんなと同じように人を愛する、ただ自分たちと異なるセクシュアリティというだけで差別されてしまうこんな社会に違和感を抱いた。しかしこれらは冒頭で話した自分とは少し相違があると思い、もう少し調べることにした。

「X ジェンダー」あまり耳にすることがなかったセクシュアリティを見つけた。これは自身で男性・女性を著しく判断・区別することができない人たちのことを指すセクシュアリティだそうだ。この中には両性を駆使できるタイプや逆にどちらでもないタイプ、日によってかわるタイプなどさまざまなタイプが存在するそうだ。これは自分と少し重なるところがあると思い、今まで抱いて

いた違和感が少し解消された気がした。しかし自分で知識を増やせたとはいえ、このようなセクシュアリティがあることを周囲に伝えていかなければ、私の本当のモヤモヤする気持ちは解消できないと思う。

一体「男性らしく」「女性らしく」とは何なのだろう。「普通」とは誰が決めたのだろう。個人的な意見ではあるが、今の社会は性別にとらわれ過ぎていると感じている。例として国会における議員の男女比率の差や力仕事は男性、細かい作業は女性、職業分野の違いに視点を当ててみると、医者や看護師は男性、看護師は女性などの偏見が人々に根付いてしまっていることなどが挙がる。現在、社会から大きな壁で分けられたコミュニティにいる私も含む当事者が自分の性をカミングアウトしにくい状況にいることを、皆さんに気づきわかってほしいと思う。

今では、私のセクシュアリティを理解してくれている最高の友人もできた。そこで分かった事は、やはり理解されていることの安心感は偉大だということだ。もしかしたら、みんなの周りにも自分のセクシュアリティを理解してくれないだろうと、カミングアウトを恐れている人がいるかもしれません。そのため、克服するには社会の協力、動き、自分勝手に誤った受けとり方をしないことなどが必要になる。そして、もし自分にカミングアウトしてくれる人がいたら、その人の話を真摯に聞き、受け入れてほしいと思う。

この世の中、自分と全く同じ人はいない。だからこそ男らしさ、女らしさにこだわらず、自分らしくいられることが一番幸せな事なんだと気づいてほしい。今では、男性でもメイクをしたり脱毛をしたり、専業主夫も増えてきている。女性でも男物の服などを身に付けたり短髪にしたりなど自分らしさを駆使し、充実した生活を送っている人もたくさんいる。

「LGBT」や「X ジェンダー」などのセクシュアリティに差別や偏見をもたず理解のある社会。男性、女性の二つのセクシュアリティだけではなく多様なセクシュアリティを認められる社会。そして人々が「SDGs」のスローガン「だれひとり取り残さない」に倣って周囲、環境を意識して見渡し、当事者が生きやすい世の中を形成することが重要になってくると思う。少しずつでもそんな社会に移り変わっていくことを願っている。そして私もこれから、自分らしさを失わず充実した人生を過ごしていきたいと思う。